

やまがたの農業

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、全国第9位の93万haの県土面積は、その地勢や江戸時代の幕藩体制のなごりから、方言や食べ物など、文化も少しずつ異なり、南から置賜（おきたま）、村山（むらやま）、最上（もがみ）、庄内（しょうない）の4つの地域に大きく区分されています。

地域ごとに農業にも大きな特徴があります。ここに掲載した内容については平成25年3月に山形県から発表された「山形県農業経営基盤強化の促進に関する基本方針」に掲載されている「経営類型ごとの経営規模及び生産方式の指標」から10aあたりに換算されている指標と平成22年10月に山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課で作成された「最上地域の経営指標」等を基に参考資料として掲載いたしました。

なお、地域や作型、販売先等により数値に変化が出てきます。また、平成26年度からの経営所得安定対策等の見直しにより、雑収入等の数値が大幅に変わる品目もありますので、経営プランの作成にあたっては、このようなことを御承知の上、参考資料として使用くださいますようお願いいたします。

資料の見方

	品 目 名		ポイント
	収 量	○○○～○○○kg/10a	□□□□□□□□□□□□
	売 上	○○○～○○○千円/10a	□□□□□□□□□□□□
【技術力】(易) ●●●●● (難)	雑収入	○○○千円	□□□□□□□□□□□□
【資本力】(小) ●●●●● (大)	経 費	○○○千円	□□□□□□□□□□□□
【労働力】(小) ●●●●● (大)	所 得	○○○千円	□□□□□□□□□□□□
【産 地】 ○○地域	労働時間	○○○時間	□□□□□□□□

- 【技術力】 技術の難易度を5段階で表示
- 【資本力】 設備投資等イニシャルコスト（初期投資）の大きさを5段階で表示
- 【労働力】 10aあたりに投下する労働時間の量を5段階で表示
- 【産 地】 県内の4地域で表示
- 【収 量】 目標収量から標準的収量まで幅を持たせ表示
- 【売 上】 収量に準じ、目標売上から標準売上まで幅を持たせ表示
- 【雑収入】 経営所得安定対策等の交付金を考慮し表示
※市町村により交付額が異なる場合があります。
- 【経 費】 材料費、農機具費等、販売費を合計した額を表示（労務費・雇用労賃は含まれない）
- 【所 得】 売上 + 雑収入 - 経費 により表示
- 【労働時間】 目標収量に対応した労働時間を表示
- 【ポイント】 当該品目の経営上の特徴を簡潔に表示
- 【品目名(最上)】 (最上)：最上地域経営指標を参考にしたことを表示。表示のないものは「山形県農業経営基盤強化の促進に関する基本方針」を参考にしたことを表示。



水 稲

ポイント

水稲には一般に栽培されている「ウルチ米」の他、「モチ米」がある。他の作物に比べ特別栽培や有機栽培も広く実施されている。典型的な土地利用型作物で、ほとんどの作業が機械化されており、単位面積あたりの労働時間は少ない。しかし、生産費に占める機械経費が大きいので、機械・施設の共同利用や営農の共同化、規模拡大などが求められる。

- 【技術力】(易) ● ○ ○ ○ ○ (難)
 【資本力】(小) ○ ○ ○ ○ ● (大)
 【労働力】(小) ● ○ ○ ○ ○ (大)
 【産地】 県内全域

収 量	570~600kg/10a
売 上	110~131千円/10a
雑収入	7千円/10a
経 費	93~96千円/10a
所 得	24~42千円/10a
労働時間	19時間



大 豆

ポイント

本県では主に水田転作地で栽培されている。大豆の作業はほとんどが機械化されており、共同組織で大面積栽培を行えば少ない労働時間で栽培することが可能である。
 大豆は湿害に弱いことから水田転作地での作付けに際しては明渠や暗渠による排水対策を十分にとっておくとともに、連作障害を回避するための輪作体系も考慮する。

- 【技術力】(易) ● ○ ○ ○ ○ (難)
 【資本力】(小) ○ ○ ○ ● ○ (大)
 【労働力】(小) ● ○ ○ ○ ○ (大)
 【産地】 県内全域

収 量	150kg/10a
売 上	12千円/10a
雑収入	62千円/10a
経 費	59千円/10a
所 得	15千円/10a
労働時間	9.4時間



そ ば (最上)

ポイント

本県のそばは主に水田転作地で栽培されている。そばは生育初期の湿害に極めて弱いため、明渠や暗渠による排水対策を十分にとっておくことが必須となる。7月下旬から8月上旬の播種、10月中下旬の収穫が一般的で排水対策以外の管理作業がほとんど不要なため、労働時間は極めて少ない。収穫は共同利用の汎用コンバインで行うのが一般的である。

- 【技術力】(易) ● ○ ○ ○ ○ (難)
 【資本力】(小) ○ ○ ● ○ ○ (大)
 【労働力】(小) ● ○ ○ ○ ○ (大)
 【産地】 県内全域

収 量	70~50kg/10a
売 上	18千円/10a
雑収入	20千円/10a
経 費	20千円/10a
所 得	18千円/10a
労働時間	5時間



ホールクロープサイレージ (最上)

ポイント

飼料用専用品種を用いる場合は、品種特性に応じた栽培管理が必要となる。
 技術的難度が上がるが、直播の導入によりさらなる省力化が可能である。
 刈取りについては、成熟期より約10日早い黄熟期に行い、コントラクターなど組織的な対応が求められる。

- 【技術力】(易) ● ○ ○ ○ ○ (難)
 【資本力】(小) ○ ● ○ ○ ○ (大)
 【労働力】(小) ● ○ ○ ○ ○ (大)
 【産地】 県内全域

収 量	3,500~3,000kg/10a
売 上	25千円/10a
雑収入	80千円/10a
経 費	70千円/10a
所 得	35千円/10a
労働時間	22時間



ぶどう (無加温ハウス)

ポイント

本県で昔から栽培されてきたぶどうの品種「デラウェア」。露地栽培の出荷時期は8月中旬からであるが、加温ハウスで栽培することにより、7月上旬からの長期出荷が可能となった。また、雨よけにもなるため、防除回数を大幅に減らすことができる。施設設置の経費やランニングコストも考慮して導入することが大切である。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	1,600kg/10a
売上	846千円/10a
雑収入	-
経費	772千円/10a
所得	74千円/10a
労働時間	295時間



ぶどう (大粒種)

ポイント

これまでぶどうは「デラウェア」が多く栽培されてきたが、需要が多く販売単価も高い「大粒種」の栽培が増えている。特に、皮ごと食べられ、食味の優れる「シャインマスカット」は消費者の人気も高く、本県の栽培面積が増加しており、県や農業団体が一体となって販売促進に努めている。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	1,500kg/10a
売上	1,500千円/10a
雑収入	-
経費	738千円/10a
所得	762千円/10a
労働時間	331時間



トマト (夏秋雨よけ栽培)

ポイント

施設を必要とすることから設備投資額も大きいですが、水稻の育苗ハウスの活用などで低減可能である。

草勢を維持するための高い技術力が必要で、収量・品質に差が出やすい。

収穫調整作業に多くの労力を要するので、農繁期の労働力・共選施設の有無により経営可能な規模が異なる。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】県内全域

収量	10,000kg/10a
売上	3,290千円/10a
雑収入	-
経費	2,307千円/10a
所得	983千円/10a
労働時間	698時間



ミニトマト (夏秋雨よけ栽培) (最上)

ポイント

水稻育苗ハウスの活用などで取組みは比較的容易だが、技術力の差が収量に影響しやすい。

収穫・調整作業に多くの労力を要するので、農繁期の労働力の確保が可能かや、共選施設の有無により経営可能な規模が異なる。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】県内全域

収量	7,000~5,000kg/10a
売上	3,500千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	1,959千円/10a
所得	1,551千円/10a
労働時間	2,176時間



きゅうり (露地栽培)

ポイント

露地栽培の場合は遅霜の心配がなくなる5月中～下旬に定植され、9月まで収穫する。

収益性は高いが多くの労働時間を必要とする品目であり、長期間の収穫に応じた管理が要求される。

安定した収穫には、土壤環境や苗質、病害虫の防除をこまめにする等の条件を揃えることが必要である。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】県内全域

収量	11,000～9,000kg/10a
売上	2,420千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	1,018千円/10a
所得	1,412千円/10a
労働時間	1,192時間



枝豆 (露地栽培)

ポイント

枝豆は、熟期の異なる品種を組み合わせることによって、長期間の出荷が可能となる。また、収穫適期が短いので、時期を逃さないように収穫することが大切である。

枝豆は、欠株や鳥害の予防から移植栽培が望ましい。また、多肥栽培は、過繁茂となり、着莢不良が発生するので注意する。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】県内全域

収量	500kg/10a
売上	300千円/10a
雑収入	-
経費	173千円/10a
所得	127千円/10a
労働時間	61時間



さといも (露地栽培) (最上)

ポイント

最上管内では、出荷は少ないが、8月のお盆や祭りといった需要期に合わせて、早掘りする作型も導入されている。また、定植や掘り取り等機械の導入によって規模拡大を図る事例がみられる。

さといもは、乾燥に弱く収量、品質に大きく影響するため、土壤水分を適湿に保つことが必要である。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】県内全域

収量	2,000～1,500kg/10a
売上	572千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	293千円/10a
所得	289千円/10a
労働時間	165時間



おかひじき (ハウス雨よけ栽培・年4回取り)

ポイント

使用できる農薬も少ないため、病害の予防には雨よけ栽培が必要である。

播種から収穫までは約35～45日間必要で、ハウスを複数棟利用することによって、連続した出荷が可能である。ただし、8月以降の播種では、夜間の照明設備が必要である。

【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)

【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)

【産地】村山、置賜地域

収量	3,000kg/10a
売上	2,172千円/10a
雑収入	5千円/10a
経費	1,587千円/10a
所得	585千円/10a
労働時間	423時間



にら (露地栽培)

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
 【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【産地】最上地域

収量	3,500kg/10a
売上	1,050千円/10a
雑収入	-
経費	971千円/10a
所得	79千円/10a
労働時間	522.3時間

ポイント

最上地域では、野菜の中で最も導入されている。比較的
低資本・軽作業であり、高齢者にも取り組みやすい品目である。

ほ場は、収穫時期ごとに分け、収穫回数は年3回以内とし3年収穫で改植する。

露地栽培で、5月上旬から10月中旬の長期間出荷が可能である。



アスパラガス (露地栽培)

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
 【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【産地】最上、置賜地域

収量	1,000kg/10a
売上	870千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	609千円/10a
所得	261千円/10a
労働時間	410時間

ポイント

最上地域で急速に産地化が進んでいる品目である。

アーチパイプを利用した長期立茎栽培が主で、収穫期間は5月から9月である。

一度植えると10年程度は栽培するため、排水対策等、定植時にほ場条件を整えることが重要である。

また、経営規模を拡大するためには、選果施設と雇用が必要になる。



ねぎ (秋冬取り)

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
 【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【産地】庄内、最上地域

収量	3,000kg/10a
売上	690千円/10a
雑収入	-
経費	548千円/10a
所得	142千円/10a
労働時間	285.9時間

ポイント

水田でも排水対策を行えば、転作品目として栽培が可能である。土を寄せて白根部分を作るとい、植物に負担をかける栽培体系のため、栽培技術の差が出やすい。

機械化の進んだ品目であり、1戸平均約40aで栽培されている。労働時間の半分以上は、調整から出荷で占められている。



すいか (つる引き)

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
 【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【産地】村山、置賜地域

収量	5,000kg/10a
売上	926千円/10a
雑収入	26千円/10a
経費	618千円/10a
所得	308千円/10a
労働時間	227時間

ポイント

本県産すいかの産出額は全国第3位、本県産野菜の中では最大の産出額である。北村山を中心に産地が形成され、大型選果施設でセンサーによる糖度や空洞チェックなどが行われている。近年は消費者志向に合わせた大玉すいかのカット販売や小玉すいか栽培なども増加している。



ほうれん草

(冬期無加温ハウス利用)

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
 【資本金】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【産地】 県内全域

収量	1,800kg/10a
売上	630千円/10a
雑収入	-
経費	383千円/10a
所得	247千円/10a
労働時間	419時間

ポイント

ほうれん草は栄養価の高い有色野菜として周年需要のある野菜である。ハウス栽培が主流であり、水稲の育苗ハウスや果菜類栽培ハウスの活用による施設経費低減が可能である。草勢を維持する高い技術力が必要で、収量・品質に差が出やすい。収穫調整作業に多くの労力を要するので、他の作物の作業と競合しない栽培体系が必要となる。



パプリカ (ハウス雨よけ栽培) (最上)

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
 【資本金】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【産地】 庄内、最上地域

収量	5,000~4,000kg/10a
売上	2,250千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	873千円/10a
所得	1,387千円/10a
労働時間	964時間

ポイント

庄内地域の生産量は多い。最上地域では、戸沢村で導入が進んでいる。栽培は、ハウス栽培で、4月下旬から定植され、12月上旬までの長期間となる。パプリカは開花から出荷まで40日~60日程度要するため、病害虫の防除や草勢管理には特に注意が必要である。また青枯病の予防には接木苗(台パワー)の導入が有効である。



ピーマン (露地栽培) (最上)

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
 【資本金】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【産地】 最上地域

収量	5,000~3,000kg/10a
売上	1,500千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	625千円/10a
所得	885千円/10a
労働時間	834時間

ポイント

最上地域では、露地栽培が主体である。この場合、施設、装備等の投資額は少なくなる。水田転作地の栽培が多いが、排水性を良くするために高畦とする。また、乾燥にも弱いので、かん水施設の整備は必要である。栽培は比較的容易であるが、病害虫防除は適時実施する必要がある。



ししとう (ハウス雨よけ栽培) (最上)

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
 【資本金】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
 【産地】 最上地域

収量	3,500~3,000kg/10a
売上	2,800千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	1,010千円/10a
所得	1,800千円/10a
労働時間	2,690時間

ポイント

最上における栽培は、県内一位の産地となっている。ししとうは、開花から収穫まで12日から18日程度で、収穫に多くの労力を要するので、労力にあった栽培規模とする。栽培する場合は、排水性が良く、保水性の優れるほ場とする。



たらの芽 (ハウス促成栽培)

ポイント

たらの芽は最上地域を代表する山菜となっている。

たらの芽を導入するに当たっては、販売先によって品種の対応に違いがあるため、地域で栽培されている品種とする。

たらのきは、排水がよく、土壌が肥沃な場所が適する。また、初期に雑草対策を怠ると生育が不良となるので注意する。

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
- 【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)
- 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
- 【産地】最上、置賜地域

収量	80kg/10a
売上	360千円/10a
雑収入	-
経費	304千円/10a
所得	56千円/10a
労働時間	151.1時間



トルコぎきょう (夏出し無加温栽培)

ポイント

夏季冷涼気候を好むので風通しの良い場所を選ぶ。

生育初期は水分を多く必要とするので、かん水設備を整えること、排水の良いほ場整備が必要となる。根張りが重要なので、有機質施用による土作りをしっかり行う。

育苗期間は1.5~2ヶ月と長く、定植から収穫までは3~4ヶ月ほどかかる。

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
- 【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)
- 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
- 【産地】庄内、村山、最上地域

収量	24,000本/10a
売上	2,400千円/10a
雑収入	-
経費	2,132千円/10a
所得	268千円/10a
労働時間	628時間



りんどう (秋出し栽培)(最上)

ポイント

酸性土壌を好み、連作を嫌うため、水田転作地に向く作物であるが、根は湿害に弱いので、排水対策をしっかり行う。

春定植の場合は、定植年は株養成し、次の年から収穫となり、約5年間収穫ができる。

品種の組み合わせにより、7月中旬から11月までの出荷が可能。

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
- 【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)
- 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
- 【産地】最上、村山地域

収量	35,000~30,000本/10a
売上	1,575千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	691千円/10a
所得	894千円/10a
労働時間	434時間



アルストロメリア

ポイント

種苗は特許があり、5年ごとの更新が必要で、種苗コストが高い。夏場の高温高湿を嫌うため、施設では換気とともに土中冷却装置などによる地温の保持が必要で、施設経費とともに高度な技術力が要求される。本県産は寒暖の差による色づきの良さが特徴で、周年にわたって出荷されている。

- 【技術力】(易) ● ● ● ● ● (難)
- 【資本力】(小) ● ● ● ● ● (大)
- 【労働力】(小) ● ● ● ● ● (大)
- 【産地】置賜、庄内地域

収量	120,000本/10a
売上	7,687千円/10a
雑収入	10千円/10a
経費	6,382千円/10a
所得	1,305千円/10a
労働時間	1,497時間